

# 令和元年度「少年の主張」根室地区大会

開催日時：令和元年（2019年）7月8日（月）  
13：30～15：20  
開催場所：根室市総合文化会館 小ホール

## ○発表者

### 【最優秀賞】

さびしさを大切に。 土岐 羅求（根室市立柏陵中学校 3年）

### 【優秀賞】

コンプレックス 遠嶋 嶺（標津町立川北中学校 3年）  
食卓のヒーロー 田中かおる（中標津町立広陵中学校 3年）

### 【優良賞】

自分だけの意見 本間 結衣（羅臼町立知床未来中学校 3年）  
小さな幸せを 上田 礼花（標津町立標津中学校 3年）  
空気に声を上げて 小田 恵矢（根室市立歯舞中学校 3年）  
努力をする人 合田 陽音（中標津町立広陵中学校 3年）  
三年後の私 須藤 花（別海町立中春別中学校 3年）  
過ちを素直に認める 安田 千晴（羅臼町立知床未来中学校 2年）  
個性 吉田 弥美（別海町立上西春別中学校 3年）

（※優良賞は発表順掲載）

## ○講評

審査員長 上原 哲朗（根室市立花咲小学校校長）

審査員 森野 志保（根室地区青少年育成運動推進指導員会会長）  
岡野 忠春（根室地方小中学校PTA連合会会長）  
山谷 良雄（根室市教育委員会学校教育指導参事）  
吉川 禎（根室市教育委員会青少年教育相談員）  
富田 直樹（北海道教育庁根室教育局教育支援課長）

## ～ 大会風景 ～







## 最優秀賞

### さびしさを大切に。

根室市立柏陵中学校 3年 とき 羅 求

四億年前、陸に上がろうとした一匹の魚がいました。皆と一緒に普通に泳いでいれば良いのに、なんと変わった魚だろう。でもその変わり者の魚の先に、今の私達がいるのです。

皆さんは一人であることが怖いですか？思春期まっただ中のこの時期、友達や仲間が大事です。でも、まわりを見て、人と違わないようにしていませんか。変わっていると後ろ指をさされたくない。なぜなら一人は淋しいからです。

私も一人である人の気持ちを味わったことがあります。一番きついのは、やっぱり他人の視線。「アイツ一人だな」と思われるのが恥ずかしいような、痛いような、たまらなく苦痛という感じです。それに、ダイレクトに「数人でグループを作って下さい。」って言われた時に困る。だから、どこかしらの大勢いるグループに潜りこもうと思立ったことがあるのです。結果、見事に浮きました。話題についていけなくなり、あいづちを打つだけになる。顔は笑っていたけれど、むしろ前より淋しかった気がします。その時私は、ふとこう思いました。一人って、そんなに悪いことだったのだろうか…。

一人である時って本当に不思議な感覚です。自分のことは自分でなんとかするしかない。でもそれは、自分を見つめなおすこと。そう、自分を知るという点では、一人であるときの深まりは結構大切なのです。

その一方で、私達は人とつながらずに生きるのは不可能です。

たとえば、私は、一人では何も作れません。今日の服やすわっていたイスだっけつくれません。服の布や、イスのフレーム。誰がどうやってつくっているのでしょうか。どうやって運ばれてきたのでしょうか。いったい、何千何万という人が関わってきたのか、私には見当もつきません。そうして初めて、私は今、ここで弁論をすることができるのです。

人とのつながりを大切にしつつ、自分も大切にするにはどうしたら良いのでしょうか。そのヒントは一人である時の感覚にあります。人と関わるときにはまず、自分自身が見えていないといけません。一人である淋しさに支配されて、自分をつくろい続ければ、自分を見失ってしまい、流されてゆく。それがあの、謎の淋しさの正体だったのでしょうか。無理をしてまで人と一緒にいたいと思うのは、自分の考えが見えない不安によるものだと思います。

学び合い、協力し合える仲間や友達に会うには、自分をつくろってはいけない。本来の自分を出したとしても理解してもらえないなら、少し淋しさを味わうことになるでしょう。その中でも、いつか道が開けると信じて、本来の自分を殺さないでいただきたい。

ただ、今の私達には、「違ってもの」「変わっているもの」を受け入れる余裕があるでしょうか。公共性や協調性。それらが変な形にねじ曲げられ、異質なものは、様々な形でバッティングを受ける。みんながみんなを監視し合っている。そんな世の中の空気がたしかにあるように思います。

そんな世界だからこそ、私達は自分であり続けるとともに、互いの考えを聞き合い、模索していかなくてははいけません。自分を知った後は相手を、そして、世界を。どれも百パーセントはわからないのです。ただ、知ろうとする姿勢は、私達の世界を広げてゆきます。

むれを離れ、一人で陸に上った魚は、そこで何を見たのでしょうか。きっと、川の中よりも、広い世界を見たはずです。



## 優秀賞

### コンプレックス

標津町立川北中学校 3年 とおしま 遠嶋 れい 嶺

「151cm」。僕の身長だ。

みなさんには「コンプレックス」があるだろうか。おそらく、この場にいる全員が「ある」と答えると思う。では、みなさんのコンプレックスはなんだろうか？きっと答えたくはないだろう。

コンプレックス。自分が他者よりも劣っていると思うこと。劣等感。

コンプレックスについて調べるとこのような文章が出てくる。

しかし、実際には人それぞれに深さがあると思う。自分自身、そのコンプレックスについてどれほど悩んでいるかで全く、深さは変わってくるのだ。

初めに戻ろう。僕は身長がコンプレックスだ。いや「だった」と言った方が正しいかもしれない。

僕は幼い頃から身長が小さく、釧路の病院にも定期的に通院していた。小さいときからよく「チビ」と言われていた。これ自体は初めは嫌だったがそのうち平気になった。それは「慣れ」だ。しかし、慣れただけでは決してコンプレックスがなおったという訳ではないのだ。どういう意味かというと、次の文章を聞くとわかると思う。

僕は小学生の頃から野球をしている。チャンスで打てなかったり、難しい打球が捕れなかったりすると、こう言われる。

「もう少し身長があつたら打てたのにね。」「もう少し身長があつたら捕れたのにね。」

だったら、だったら言わせてもらうが、じゃー逆に「みなさんは身長を大きくするために何か特別な努力をしたの？」逆に僕は「何か悪い事でもしたの？」

僕が慣れたというのは、あくまで「チビ」という二文字の単語であって、コンプレックス自体に慣れたというわけではないのだ。

しかし、小学六年生の時。野球で同じことを言われた。僕は悲しかった。しかし、同時に何かが変わった。

「身長が小さくて遠くに打球を飛ばせないならバントをすればいいじゃん。」「身長が小さくて捕れない打球があるなら反応速度を速くすればいいじゃん。」そう、コンプレックスはなにがどうしてもコンプレックス。それは変わらないと思う。しかし、前を見る。前を見ることでコンプレックスの深さはどんどんどんどん浅くなっていくと思う。

パナソニックの創業者である松下幸之助さんは次のような言葉を残している。

「自分の長所に自惚れてはならない。自分の短所に劣等感を持つ必要もない。長所も短所も天与の個性、持ち味の一面なのである。」松下さんはコンプレックスを「個性」と表現していた。

僕は「コンプレックス」を抱くことである意味成長できたと思う。

みなさんもコンプレックスを「個性」として捉え、生活してみてはいかがだろうか。

きっと心身ともに成長できる。コンプレックスをプラスに変換できる。そうすればより「個性」は輝くと思う。

みなさんのコンプレックス、いや「個性」はなんだろうか？



## 優秀賞

### 食卓のヒーロー

中標津町立広陵中学校3年 <sup>たなか</sup> 田中 かおる

「ピーマン苦手だから残しちゃお!」「野菜なんかいらないや!それより肉!!」皆さんはこのような言葉を耳にしたことはありませんか。「食卓に野菜が並んでいるのは当たり前。」きっとここにいる多くの人がそう思っているはずですが、でも、その「当たり前」を作っているのは農家の人たちだということを忘れないでほしいのです。農家というのは天候に左右される仕事です。もし、悪天候が続けば食卓に並んでいた野菜の姿は段々と消えていき皆さんの「当たり前」が当たり前ではなくなってしまうかもしれません。

私がなぜこんなことを言いたいのかという私の家が農家でたくさんの苦勞を抱えているからです。覚えていますか?一昨年、雨が大量に降り、農家以外にも土砂災害や川の氾濫などの大きな影響を与えたことを。その年の作物のおよそ四割は腐ったり、育たなかったりと不作の年となりました。このように、作物ができないということは食卓に並ぶ野菜の数も減り、値段も当然高くなるということです。例えば、毎年二〇〇円で売られているキャベツが五〇〇円にまで高くなってしまいます。これでは消費者である皆さんも困ると思います。ですが、それ以上に困るのが農家の人たちです。農家にとって作物を出荷することが収入の大半を占めています。作物ができなければ出荷することができず、収入源を失ってしまうのです。そのせいか、父や母は毎日天気予報を確認しています。他にも畑が鹿などに荒らされてしまえば作物は育たなくなります。また、同じ畑に同じ作物を作り続けていたら病気にかかりやすくなります。そうならないように「この畑には今年はじゃがいも、来年はキャベツ。」など色々なことを考えながら作物を育てています。

「でも、冬は何もやってないんだらう?」と思っている方もいると思います。確かに夏などに比べればやることは少ないです。ですが、決してサボっているわけではありません。冬は次の年に向けての準備期間です。例えるなら、受験を間近に控えている受験生。あるいは、新生活を送るための家探しのよう、無事に春を迎えるために必要な準備期間なのです。この準備期間があるからこそ、夏は機械が正常に動くし、取引先とも上手くやっけていけるのです。

このように、農家は一年を通して畑や機械、作物のことを一番に考えて行動しています。他の仕事に比べれば収入だって安定していないし、夏と冬の仕事の量も極端に違います。そんななか、農家の人たちは朝の三時頃に起きて畑に行きます。大きな傷を作ってまで機械を直しています。血の滲むような仕事にも、耐えているのです。こんなに大変な思いをしてまで農家として働く多くの人と、父を、私は尊敬しています。それと同時に、感謝の気持ちも持たずに野菜を捨てたり残したりする人たちを見ると悲しい気持ちになります。皆さんの、「当たり前」を作るために、農家の人たちが必死に作った野菜なのです。簡単に捨てないでください。残さないでください。父が、農家の人たちが皆さんのために作り、育てた野菜を。



## 優良賞

### 自分だけの意見

羅臼町立知床未来中学校 3年 ほんま ゆい 本間 結衣

私の周りのクラスの女の子は、ジャニーズやアイドル好きな子が多いです。皆さんの周りはどうですか。でも私は昔からロックバンドが好きなのです。だから友だちの話になかなかついていくことが難しかったのです。よく知りもしないのに話を合わせたりすることに罪悪感を持ったこともありました。こういう経験は、皆さんにはありませんか。

道徳の授業のことです。その授業は道徳の教科書の読み物を読んで感想や意見を書き、みんなと意見を共有するという授業でした。

先生は、いろいろな意見を出させて授業を進めたかったはずなのですが、なかなか意見が出なかったことがありました。私も何も言えませんでした。先生には、申し訳ないと思いました。

この二つの体験を通して、「自分の意見を持つ」ことの大切さを学びました。

最近思うようになったことがあります。当たり前のことや常識にとらわれず、小さなことでもよいので疑問を持ってほしいのです。

それには自分をしっかり持たなくてはなりません。他人に左右されない自分の意見を持つ必要があります。疑問から自分だけの意見を導き出すことが成長へとつながり、考える力や学ぶ力はつくのではないのでしょうか。

自分の意見があれば次に必要なことは自分の意見を伝えることです。世の中ではコミュニケーション能力などと言われたりします。

人は、自分とは違う意見を恐れずに伝えることは、勇気が必要です。勇気がなければ自分の意見を伝えることはできません。

いろいろな意見をぶつけながら話し合い、そのことが私たちの成長につながるのではないのでしょうか。

なんてことのない普段の決め事などから自分の意見を持ち、考える力を養えば、社会に出たときの重要な話し合いなどで必ず役に立つはずですよ。

皆さんは、自分の意見を持つことを大切にしていますか。

フランスの哲学者ブレイズ・パスカルは、次の言葉を遺しています。

「なぜ人は多数に従うのか。彼らがいっそう多くの道理を持っているからなのか。いや、いっそう多くの力を持っているからなのだ。」

この言葉を知ったとき、驚きました。そしてある疑問が生まれました。道理、すなわち「人として行うべき正しい道」よりも、人はなぜ、多数派に従ってしまうのか。少数派より、多数派が持っているものとは、なんだろうか。

考えた結果、多数派が持っているものとは、心地よさや安心感があるのではないのでしょうか。確かにみんなと一緒にいれば、人は安心できるのでしょうか。心地よさや安心感を求めすぎると、考える力はつくのでしょうか。

そして学ぶ力はつくのでしょうか。

考える力や、学ぶ力もまた、学びによって成長していくのではないのでしょうか。

私はこれから、勇気を持って自分の意見を大切に学生から社会人へとつなげていきたいと思えます。そして他の人の意見を取り入れるなどして、柔軟な考えを持ち、次のステップにつなげ更なる成長につなげたいと考えています。

皆さんも、どんな小さなことでもよいので、自分だけの意見を持ち、それをしっかり周りの人に伝えていってほしいです。そして、自分だけの意見を持ち、勇気を大切に多くの人に伝えていきましょう。



## 優良賞

### 小さな幸せを

標津町立標津中学校3年 上田 礼花

「ざわわ ざわわ ざわわ 広いサトウキビ畑は、ざわわ ざわわ ざわわ」一度は聞いたことがあるでしょう。森山良子さんが歌う「サトウキビ畑。」昭和を代表する名曲の一つなのですが、この歌の舞台が沖縄戦であるということを、いったいどれだけの人知っているのでしょうか。

この歌で歌われる思い。それは歌詞の最後の一節に表れています。

「この悲しみは消えない」

この悲しみとは何でしょうか。そこに普通にあったささやかで小さな幸せが戦争によって奪われた傷、痛み。この苦しみが戦争終結後七十三年たった今も消えることなく続いている。それがここで歌われる「悲しみ。」そう私は感じています。

私には祖父がいます。いつも笑顔で、何でも私の話を聞いてくれる優しい祖父。そんな私の大好きな祖父も、沖縄戦での戦争で「小さな幸せ」を奪われた一人です。戦争で祖父の父を、姉を、住むところを、自由を、祖父の取り巻くあらゆるものを、戦争という悲劇が奪っていきました。

実はこの事実、私はあまり詳しくは知らないのです。祖父の過去は母が教えてくれたこと。祖父から直接聞いたわけではありません。過去にあったことを聞いてもあまり多くを語ってはくれないのです。

なぜ話してくれないのか。きっと過去の日々を口に出してしまえばあの悲劇を思い出してしまう。祖父にとって、あの「悲しみ」は今でも消えない傷となって心に残っているのでしょう。

そしてもう一つ、自分が経験した辛い悲しみを孫には知って欲しくない。一生自分を苦しませ続けた思いを、自分の中だけでとどめておきたい、そんな気持ちを持っているのかもしれませんが。

祖父の気持ちは良くわかる、だけど、その考えは本当に正しいものなのでしょうか。

私は知りたい。沖縄の悲惨な過去も、祖父の辛い痛みも、すべて、受け止めたい。

私達の今は、過去の積み重ねからできています。明るい偉業はそれを引き継ぎ、暗い過去は反省して直し、そうやって今の私達の生活は作られました。もし、祖父達の悲しみを知らなければ、私達はどうやって過去を振り返り、反省することができるのでしょうか。

反省のない未来はどのようなものか、私達は経験で知っています。過去がまた繰り返されるということを。それは祖父の感じた苦しみを、今度は私達が体験する番になるということなのです。

「小さな幸せ」がずっと守られるよう、戦争とは何か、またこれから私達はどうやって生きていけばいいのかを再度考えなければならないのです。

戦争という過去の出来事とどう向き合っていくのかは、私達次第です。

最近祖父は少しずつ、過去の出来事を話してくれるようになりました。祖父の「小さな幸せ」が奪われた悲しい話。私はその思いをすべて受け止め、そしてその思いをまた未来に伝えていきます。今ある「小さな幸せ」がいつまでも続いていくように。





## 優良賞

### 空気に声を上げて

根室市立歯舞中学校 3年 おだ けいや  
小田 恵矢

あなたは「空気を読める人」と言われている？それとも「空気を読めない人」だと言われたことがある？

「空気を読める人」と言われているなら、「空気を読みすぎて、辛い」と思ったことは？

そもそも、「空気を読む」とは何だろう。

私は読みたくないと思った空気まで読んでしまっ、辛い思いをすることが多い。

私は、自分の個性だと思っている体の特徴を、周りから冗談半分でいじられることがある。しかし、誰でも一つや二つはコンプレックスに思っている体の特徴があるはずだ。私自身は、自分の変えられない特徴について、軽い気持ちでも他人がからかいに使うのは許されないと思うし、やめてほしい。

そんな気持ちをこめて「やめろ！」と言いたかったはずが、私の口から出た言葉は、笑いながらの「やめて〜」だった。本気で「やめろ！」と怒ることができなかった。

他にも、ペンや持ち物を勝手に触られ、私自身の名前を落書きされたり、ノートに勝手に絵を書かれたりする。

このときも、私は、笑いながら「やめて〜」としか言えなかった。

いじってくる側には、悪意は無いと思う。

むしろ、遊んでいるつもりで喜びながらいじってくる。私もそんな空気を読んでしまい、笑いながらお願いする口調でしか自分の気持ちを伝えられていないため、本当は辛いし、嫌だし、怒っているとは一ミリも伝わっていないはずだ。

私が「怒ってみせること」を避けているのには理由がある。「なんでキレてるの？」と馬鹿にして笑われること。そして、今ある友情が壊れることが怖いのだ。結果、空気を読んで、流されるように一緒にふざけてみせてしまう。

これは、自分に関わることだけではない。

クラスメイトが陰で体に関する悪口を言われていたときも、本当は、「それは絶対に言っちゃいけないだろ！」と言いたかった。

しかし、もしそれを言ったら、自分に攻撃の矛先が向くかもしれないと思ったら、怖くなった。結果として、何も言えず、ただ黙って空気を読み、悪口の話が過ぎるのを待った自分を情けなく感じた。

そんなある時、私はネットでいじめによる自殺の事件を目にした。席を蹴られたり、からかわれたり、馬鹿にされるのを苦しめての自殺だった。私はふと、誰もいじめを止められなかったのか、と思った。しかし、その何気ない思いは、あの時、周りの空気を読んで悪口を止められなかった自分自身に突き刺さった。

私たちがつい「空気を読まないやつはダメなやつ」と思ってしまうのはなぜだろう。空気を変えようと声を上げた人間を、「集団を乱すやつ」のように扱ってしまうのは、なぜだろう。

「空気を読まなきゃ…」「みんなに合わせないと…」そう思ってしまうせいで、読みたくない空気や、嫌な空気まで読んでしまっていないだろうか。

今はまだ、嫌な空気に対して、「やめろ！」と言える自分にはなれない。けれど、これから少しずつ、声を上げられる自分になりたい。



## 優良賞

### 努力をする人

中標津町立広陵中学校 3年 合田 是と 陽音

「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力とは呼べない。」  
元プロ野球選手の王貞治さんの言葉です  
みなさんはどう思いますか？

僕はその言葉を信じています。なぜなら、努力をしていると、もし自分にチャンスが来たときに、その努力が自信に変わるからです。

僕は、小学校から野球をやっています。たくさん練習をして、打席に入った時は、ワクワクできます。でも、練習の量がちょっと少なかった時は、緊張してしまいとてもドキドキしてしまいます。やるべきことをやると、気持ちの面に余裕ができ、試合を楽しむことができました。

では、努力したことは、みんな報われるのでしょうか。僕は、中学に入ってから、夜に何人かの友達と、バッティングの練習をしていました。そして、今年に入ってから、ほぼ毎日、憲靖君と2人で夜にバトミントンの羽を打って練習をしています。最初はあまり飛ばなかった羽も、今は結構遠くまで飛ぶようになりました。

このように、僕なりに努力しているつもりですが、納得できる結果を残せていません。まだ練習や経験が、足りないというのかもしれないかもしれません。だからといって諦めてしまうと、今までやってきたことが無駄になってしまいます。だから、いつかその努力が報われることを信じています。しかし、たまにうまくできない自分がかっかりしてしまうことがあります。

「一番いけないのは、自分なんかだめだと思いこむことだよ。」

これはアニメで有名な、のびのび太君の言葉です。僕は、気持ちが暗くなってしまった時は、この言葉を思い出します。すると、少し気持ちが軽くなるような気がします。

僕は、努力している人に出会いました。それは野球部の顧問だった高橋先生です。なぜかという、高橋先生はあまり野球経験が無いというのに、いつの間にかノックが打てるようになっていて、とてもびっくりしたからです。先生は、野球部での自己紹介の時、

「経験は無いけど、野球は大好きです。」

と言っていました。これこそ「好きこそ物の上手なれ」ということなのでしょう。か。「好きこそ物の上手なれ」とは、「どんなことであっても、人は好きなものに対しては熱心に努力するので、上達が早い」ということです。高橋先生は、僕達がキャッチボールをしている時に一人でバックネットに向かって黙々とノックの練習をしていました。僕はその姿を見て、とても感動しました。

「努力は必ず報われる」とは限りません。しかし、夢が叶うと信じなければ、努力する力も生まれません。信じること、好きでいること、そして諦めないことが大切だと思います。僕は、失敗を恐れずに一歩前へ進んでいける自分になりたいです。そして、もしもだめだった時、自分を褒められるような自分でありたいです。

To not give up !!



## 優良賞

### 三年後の私

別海町立中春別中学校 3年 須藤 はな

成人とは成長して一人前、立派になった人のことであり、現在二十歳の人とされています。しかし、昨年、二十歳から十八歳に引き下げることが決まりました。下げる理由として言われているのは『世界の標準の成人年齢は十八歳だから』、『早くから若い人に社会参加してもらい政治に関心を持ってほしい』。また、こんな声も聞こえてきます。『国民年金の加入年齢を引き下げ、税による収入を増やしたい』、『消費を拡大させたい』。私は、成人年齢を引き下げること戸惑っています。

第一に、世界に合わせる必要性はあるのでしょうか。第二に、国のお金のためにそれらしい理由をつけて、成人の年齢を引き下げような手段や方法は許すことができません。

第三に、成人の年齢は引き下げると飲酒や喫煙などは二十歳になってからという大きな矛盾。今や二十歳になり久しぶりに再会した中学、高校の友人と一緒にお酒を飲むという成人の証。そんな楽しみもなくなってしまう。

また、十八歳で成人式を行うとすると大学へ進学する人は受験と重なってしまうかもしれません。

「十八歳の成人」。いいところもあるようです。

携帯電話やクレジットカードの契約が一人でできたり、十年有効のパスポートを取得することができたりします。ここは令静に良いところにもしっかり目を向ける必要があります。

引き下げるのは三年後です。二〇二二年四月一日に施行される場合、成人式が十八歳の人、十九歳の人、二十歳の人で行われると言われています。私が十八歳になる年に施行されます。記念すべき一年目の十八歳成人になれることは正直に嬉しく思います。どんなことになるのか、今からワクワクした気持ちになります。

十八歳で成人したときの私。私の姿はどんな風でしょうか。果たして成人女性としてすべてのことが備わった女性になっているのでしょうか。

みなさんは三年後の自分の姿が想像できますか？想像してみてください。

十八歳とういって高校を卒業し、大学に行ったり就職したり、一人暮らしを始めたりと、大きく環境が変わる年です。そんな忙しいときに成人して社会に関わり責任を持たなければならなくなり、さらに税金を払わなければなりません。

私はそんな忙しいときではなく、心も環境も落ち着いた二十歳で成人になる方がいいと思います。ですがもう法律で決まってしまったことです。十八歳までの三年間は私たちが成人になるための心の準備期間だと思います。

成人とは、その年齢に達したら自動的になるものではなく、一人の社会人として、強い意志と責任感を兼ね備えた人。そうあるべきではないでしょうか。三年後、私たちは「何ができるのか、何をすべきなのか」を常に考えられる成人になりましょう。



## 優良賞

### 過ちを素直に認める

羅臼町立知床未来中学校 2年 やすだ ちはる  
安田 千晴

先日、母に家事の手伝いを頼まれた。しかし、疲れていたことを理由にやりませんでした。その時、母に注意されたのに謝ることができませんでした。

みなさんは家族で決めたルールや約束を破ってしまったことはありませんか。また、そのことについて謝れなかったことはありませんか。

そんなある時、父が読んでいた新聞の記事が目にとまりました。そこには、「失敗や過ちを素直に認めて謝る」とありました。この記事を読んで、ふと思いました。私には、できていないと。

その記事には、「言うのは簡単でも、実際には様々な感情が邪魔してしまい。なかなか難しいもの」と書いてありました。確かにそうかもしれません。実際に私も、自分が悪いと思いながらも謝ることができませんでした。なぜだか、過ちを素直に認められないのです。

どうして、「自分の過ちを素直に認めて謝ることができないのでしょうか。母と話し合いながら、自分なりに二つ、考えてみました。

一つ目は、そもそも自分の過ちに気づけていないからです。確かに、自分の意見が間違っていたとしても、すぐにはその間違いに気が付くことはできません。しかし、自分の考えていることが本当に正しいことなのか、相手に伝える前にもう一度考えることが大切だと思います。

二つ目は、過ちに気がついても相手に伝えることができないからです。つまり、心で分かっているのに謝れないからです。これは多くの人が経験しているのではないのでしょうか。謝りたいという気持ちがあっても、謝れないのです。

それでは、どうすればよいのでしょうか。

記事には、「自分の失敗や過ちに気づいた段階ですぐに認め謝ること」と書いてありました。

そこで、すぐに謝ることが大切だと思います。確かに、謝るまでの時間が長くなってしまうと、信頼関係などが壊れてしまうことにつながるかもしれません。

しかし、ただ謝るということでよいのでしょうか。私は、そうは思いません。ただ謝るだけだと、謝られる方は、余計に嫌な気持ちになると思います。だから、謝るだけでなく、しっかりと何が悪かったのかを反省し、その反省した内容を伝えながら謝ることが大切だと思います。

この新聞記事を読んで、自分の今までの生活の言動を振り返ることができる、良い機会となりました。そして、これからの生活に活かしていきたいです。

皆さん、自分の失敗や過ちを思い出してみてください。きちんと素直に認め、謝ることができていますか。自分の言動を振り返ってみてはいかがでしょうか。



## 優良賞

### 個性

別海町立上西春別中学校 3年 吉田 弥美 よしだ みみ

皆さんは個性について考えたことはありますか。「あなたの個性は」と聞かれたら答えられますか。テレビでは奇抜な衣装を着た人や歯に衣着させぬ物言いをするタレントが強烈な印象を私たちに与えています。これが個性なのでしょうか。

あるテレビ番組で「自分の個性を出すの。」と言われた一人の女の子が「私の個性ってなんだろう。私に個性なんてあるのかな。」と顔を曇らせました。もしかしたら、みなさんもこの女の子のように、とまどう人が大半なのではないでしょうか。確かに突然「個性とは」「個性を出せ」と言われてもすぐには浮かばないかもしれません。私もそんな一人でしたけれど、個性は誰にでもあるものだと思うきっかけがありました。

それはある文章との出会いでした。「例えばあるクラスで『旅』という字を書かせたらみんな同じ字にはならないでしょう。一人ひとり、止め方、はね方、はらい方があります。言葉でいい表すのは難しいですが、そういう一人ひとりあるものを個性と言うのではないのでしょうか。」この文章を目にしたとき、私の中に「個性」という言葉の意味がすとんと落ちたのです。そう、個性とは何か人より際だっているものではなく、私自身、私そのものなのです。

「ここで主人公がどう感じたと思った？」先生が考えを聞いてきたときです。みんなは「とまどい」と答えました。しかし、私一人「恐怖」と答えていました。「えー、どこからそう感じたの。」「それは、違うよ。」私はこんな風に人と話がかみ合わないときが多々あります。はじめは話についていけないのが嫌で無理に考えを合わせていました。ですが先ほどの文章と出会い、それもそれでいいのかもしれないと思うようになりました。他の人には同じ文字が書けないように、私は他の人には見られないものを見ているのだ。他の人には感じられないものを感じているのだと思ったのです。そして、それが私の「個性」なのだ気がついたのでした。

また、「弥美、そっけないよ。」「もう少しリアクションしてよ。」いつもの友達とのやりとりです。人には冷たく感じられる私の態度もちろん私自身が個性なのですから、こういう変えていかなければいけないところも個性です。そう、良いところばかりではないのです。でも、自分を客観的に見つめ、自分自身について知り、その魅力に気づき、しっかり受け止めること。それが大事なのだと思います。

それは周りの人たちとの関係でも言えることです。人はすぐに誰かと自分を比較します比較は悪いことだとは思いません。ですが、ときに意味のない比較もあります。それが個性の比較です。全く違う形をしている個性は比べようがないのに、比較をし、優劣をつけ押しつけようとしたりします。例えば、クラスという集団では「出る杭は打たれる」で少し目立つ存在があるとそれを攻撃したりします。しかし、色々な個性が有るからこそ素晴らしい集団になるのです。真面目な誰かがいてすぐにふざける誰かがいて、少し口の悪い誰かがいて、誰かをいつも心配する優しい誰かがいて…。色々な個性が交じりあうからこそ集団も輝くのです。つまり、お互いの個性を見つめ、それを認め合うことが大事なのです。

私が今一番個性を感じられるとき、私らしさを感じられる時、それは好きなことをしたり、見たり、聞いたりしているときです。自分の個性は自分自身です。自分をしっかり見つめ、認めて自分らしく、生きてみませんか。



## 審査講評

### 審査員長

根室市立花咲小学校校長 うえはら てつろう  
上原 哲朗

発表された皆さん本当にご苦労さまでした。自分の主張を文章にまとめることを通して自分の考えが明確になってきたり、貴重な本や新聞記事、それから、人物の言葉とかそういう物に巡り会ったり、新たな自分に気づいたり、そんな経験をしたことと思います。

自分の考えを堂々と述べる本当に立派な中学生の姿を見て、私、とても良い時間過ごさせていただきました。この取り組みを通して皆さん一人ひとりが、人として成長したことが想像出来ます。

上位入賞した人も、そうでなかった人もそれぞれが価値ある取り組みを通して自分を高めることが、出来たんだと思います。

皆さんの頑張りと、ご指導にあたった方々、本大会を支えた方々のご苦労に敬意を表し、講評と致します。本当にご苦労様でした。

